

未来を拓くこころざし

育て、下町っ子 台東区幼児教育共通カリキュラム

「ちいさな芽」



幼児教育は人として生きるための『根っこ』の部分育てます

幼児教育は「生きる力」の基礎になる、人間としての「根っこ」を育てる教育です。

「ちいさな芽」も、柔らかな土に包まれ、あたたかい環境と雨があつてこそたくましく育ちます。

この時期にふさわしい体験と環境の下で困難に遭遇しても揺らぐことのない強い「根っこ」を育てましょう。



人生を大樹にたとえるのならば、その出発点である幼児期の教育は人として生きるための「根っこ」を深く、大きく広げる時期にあたります。それは生きる力の源とも言えるものです。台東区では、幼児教育の基本理念を次のように決めました。

台東区の幼児教育の基本理念

人権尊重の精神に基づき、豊かな生活体験を積み重ねながら、規範意識の芽生えを育て、一人一人のよさと可能性を伸ばしていくことで、「生きる力」の基礎を培う。

四季折々の伝統行事、そして、日々の暮らしに根ざした下町の生活文化など、台東区は、個性豊かな文化を育ててきた地域です。身近な地域の歴史や伝統に触れ、地域への誇りと愛着をもち台東区で育つ「下町っ子」が、きまりを守り、好奇心や豊かな感性をもてるよう、「生きる力」を育てていきます。



台東区の幼児教育がめざす子供の姿

健やかな心と体を持ち、きまりを守り行動できる子供

やさしさや思いやりの心を持ち、友達と協力して物事をやりとげようとする子供

自然や身近なことに関心を持ち、自ら考え、豊かに表現する子供

規範意識と学びへの意欲、
豊かな感性をもった子供を育てます

幼児教育の充実が求められています

幼児期は、知的・感情的な面でも、また人間関係の面でも、日々急速に成長する時期です。この時期に経験しておかなければならないことを十分に行うことは、将来、充実した生活を送る上で欠かせないことです。

つまり、幼児教育は「生きる力」の基礎になる、いわば地面の下の「根っこ」を育てる教育です。大きな木に育ったときにも、揺らがないような強い根っこを幼児期から育てることが大切です。

幼児期はこんな時期です

幼児期の発達の特徴

- ・体も運動機能も発達する時期です
- ・心が発達して、喜怒哀楽の感情が育つ時期です
- ・心身の発達の個人差が大きい時期です
- ・大人への依存をもとに、自立した生活へ向かう時期です
- ・同年代の友達を求める時期です
- ・直接体験を通して、自分の考えやイメージや行動の仕方をもつようになる時期です
- ・信頼している人のようになりたいと、まねをしていく時期です
- ・他者とのかかわりの中で、様々な葛藤やつまずきなどを通して、将来の善悪の判断につながる基本的な区別ができるようになる時期です

一人一人に応じた教育と、協同的な遊びを通して、人間形成に必要な心情・意欲・態度を培っていきましょう

台東区幼児教育カリキュラム「ちいさな芽」は、すべて幼児の

人として生きるための『根っこ』の部分を育てます。

幼児期には

- 生きていく意欲を育てましょう
- 善悪の判断をしっかりさせて育てましょう
- 人とかかわる力を育てましょう
- がまんする力を育てましょう

幼児期こそ

大人がしっかり手をつなぎましょう。発達段階に沿った「望ましい姿」により、どの園、どの家庭でも、「この時期には、この力を育てましょう」という共通の理解をして園と家庭が協力していくことが大切です。

子供たちに身に付けさせたい3つの

- 1 健康な心と体で生活で
- 2 相手や状況が分かり、
- 3 自分で考え、意欲的に

人とのか

進んで身近な人と情や信頼感をもつ社会生活における慣や態度を身につ

生活

明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。など

3つの

意欲

幼児教育は遊びを通して保育・教育の実践では

3つの重視

- ◆ 主体的な活動、協同
- ◆ 見る、聞く、話す力
- ◆ 計画性・柔軟性のあ

好奇心

興味
関心

興味
関心

食育

規範意識の芽生えの育成

生活習慣・学習習慣の
共通化・段階化

地域

力

できる力
楽しく活動し、協力できる力
遊び、学べる力

かわり

かかわり、愛
。望ましい習
ける。など

の柱

学 び

身近な環境に親しみ、自然と触れ
合う中で様々な事象に興味や関心
をもつ。
感じたことや考えたことを自分な
りに表現して楽しむ。など

意
欲

した総合的な指導です
、この3点を重視しましょう。

する点

的な遊び

の育成

る環境・援助

探究心

興味
関心

こころざし教育

体力の向上

財産等の活用

幼児期から6つの取組を重視します

台東区の幼児教育では、この6点を大切にしましょう。



遊びから小学校の学習への円滑な接続

遊びから学びへの移行が重要です

義務教育の入門期は、幼児教育から一貫した、生活、人とのかかわり、学びの3つの柱で幼児教育から移行していきましょう。

小学校の教員も幼児期の学びを理解していきましょう

3つの連携を重視します

- 1 幼児と児童の交流活動を取り入れていきましょう
- 2 保育士・教員、小学校教員の連携を進めましょう
- 3 家庭との連携を工夫していきましょう

どの園でも、学校でも、家庭でも、 「ちいさな芽」では、これを実行します

生活の根っこを育てます

あいさつをしっかりとします きちんとおじぎをします
身の回りを整理します 靴をきちんとそろえます
毎日運動をします

心の根っこを育てます

相手に言葉でしっかり伝えます
競い合い、協力し合い、友達と一緒に活動します
まわりの人に親切にします

学びの根っこを育てます

思考力の芽生えを大切にします
自分で考えることを大切にします
地域の人から学びます 地域の施設でも学びます
様々な体験を積み重ねていきます

下町台東の特色を活かして、
みんなで子供を育てましょう

I 幼児教育の充実について



1 就学前教育の充実が求められる背景

今、子供の育ちや保護者をめぐる環境が変化し、幼稚園や保育園、こども園への期待が高まるとともに、質の高い保育が求められています。

1990年代以降、国際社会では乳幼児期の発達と学習が、初等教育を含むその後の人生の経験や生活の質に極めて重要な意味をもつとの問題意識のもとに就学前教育への関心が高まってきました。平成18年に経済開発協力機構(OECD)が、就学前教育と初等教育の学習内容や方法に一貫性や継続性をもたせる統合的なアプローチの共有を提案しました。

我が国では平成17年1月中央教育審議会答申「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について」の中では、「幼児期は、知的・感情的な面でも、また人間関係の面でも、日々急速に成長する時期でもあるため、この時期に経験しておかなければならないことを十分に行わせることは、将来、人間として充実した生活を送る上で不可欠である。」と、生涯学習の視点から幼児期の教育の重要性について述べています。

平成19年には学校教育法が改正され幼稚園は義務教育及びその後の教育の基礎を培うものであることが明確化され、平成20年に改訂された幼稚園教育要領においては、幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う上で重要であるとの認識のもと、一人一人に応じた総合的な指導を行うとともに、生活、発達及び学びの連続性を確保することにより幼児の健やかな成長を促すことを方向性として打ち出しています。また、平成20年3月には、保育所保育指針が改定されました。この改定は就学前の子供に対する教育機能の充実がより重要な課題となったことが、その背景の一つとなっています。このため、その「ねらい」及び「内容」についても養護と教育の両面から考察されたものとなっております。

就学前教育の重要性が一層高まり、多様化する中で見逃してはならないこととして、幼稚園と保育園、こども園などとそして小学校とでは、子供の生活や教育方法が異なっており、近年これらに対応できない子供も見受けられているという状況があります。しかし、本来、子供の発達や学びは連続しているものであり、幼稚園や保育園、こども園などにおける共通した保育の充実への取組と小学校との連携の取組によって、就学前教育のさらなる充実と小学校教育との円滑な接続が図られれば、こうした問題を解決する一つの手立てになると考えられます。



いつの時代でも、一人一人の子供たちは成長への無限の可能性をもち、健やかな成長を願う大人たちの思いも変わりません。就学前教育では、何を大事にするべきかを真剣に考え、環境を整えるとともに保育・教育の方法を見直し、子供たちの最善の利益を考えながら、時代を見据えた保育・教育内容にしていく必要があります。人は、生活をしながら感覚を磨き、生きるための知恵を育みます。生活そのものが教育です。

子供たちの発達を取り巻く社会的な状況に留意をはらいながら、台東区に育つ子供の誰もが参加できる就学前教育の中で、未来を担う子供たちの学びを豊かにしていくことがとても重要になります。いまこそ、就学前教育にみあう、大きな指針とカリキュラムの基準となるものを、全ての方々と協力して実現していくときです。



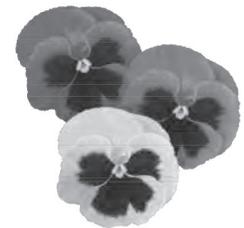
2 台東区の幼児教育の基本理念

幼児期の教育は、家庭教育を基盤として、地域社会、幼稚園や保育園、こども園など小学校就学前の幼児が生活する全ての場で行われます。このため、家庭と地域社会、幼稚園・保育園・こども園が十分な連携を図り、それぞれの教育機能を発揮して、学習や人間形成の基礎を培うことが重要です。

義務教育の前段階である幼稚園・保育園・こども園に通園している幼児や在宅の幼児を含め、全ての幼児を対象とした幼児教育を公立、私立の幼稚園・保育園・こども園、それぞれの取組のよさを活かしながら、その枠組みを超えて推進していく必要があります。子供の発達特性と生活や学びの連続性を考慮しながらも、過度に子供中心主義に傾くことなく、人として生きるために必要なことはしっかりと教え、子供が自ら考え、創造していく教育が大切になります。

幼稚園・保育園・こども園では、幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保することが何よりも必要になります。それは、遊びにおいて幼児の主体的な力が発揮され、生きる力の基礎ともいえるべき生きる喜びを味わうことが大切になるからです。幼児は遊びの中で能動的に対象にかかわり、自己を表現していきます。そこから、外の世界に対する好奇心が生まれ、探索し、物事について思考し、色、数、量、図形、文字などに興味・関心をもち、知識を蓄えるための基礎が形成されていきます。また、ものや人とのかかわりにおける自己表出を通して自我を形成するとともに、自分を取り巻く社会への感覚を養っていきます。このようなことが広い意味での幼児教育の役割といえることができます。

そしてまた、幼児教育は、その後の学校教育全体の生活や学習の基盤を培う役割も担っています。この基盤を培うとは、小学校以降の子供の発達を見通した上で、幼児期に育てるべきことを幼児期にふさわしい生活を通してしっかり育てるということです。そのことが小学校以降の生活や学習においても重要な自ら学ぶ意欲や自ら学ぶ力を養うことにつながっていきます。さらに、家庭における幼児教育が一層充実し、よりよい子育て環境の中で安心して子供にかかわれるように保護者への相談・助言・指導を行い、幼児に対する家庭教育の考え方や、家庭教育のための知識を豊かにすることも重要になってきます。



「台東区長期総合計画」の基本目標のひとつである、「こころざしを抱き、夢や希望をもち、21世紀を自らの力でたくましく生きることを可能とする教育」や、「台東区教育委員会教育目標及び基本方針」に掲げられていることがらを踏まえ、「台東区教育ビジョン」の提言等から、幼児教育の基本理念を次のように定めました。

この理念に基づき、それぞれの園の沿革やこれまでの保育・教育方針、地域の特性等をふまえ、各園で目標や方針を設定していくようにします。

台東区の幼児教育の基本理念

人権尊重の精神に基づき、豊かな生活体験を積み重ねながら、規範意識の芽生えを育て、一人一人のよさと可能性を伸ばしていくことで、「生きる力」の基礎を培う。

下町台東の先人が築いてきた文化や環境を大切に、
幼児の規範意識の芽生えや思考力、人とかかわる力、
感性や表現する力の育ちを重視して、
「根っこ」を育てる幼児教育を進めます。

幼児期における教育を推進するにあたっては、家庭、地域社会、幼稚園や保育園、こども園などにおいて、子供たちの育ちと成長に関心を持ち、幼児期の心身の発達特性の理解を深め、一人一人の幼児に配慮した支援に努めることが重要です。幼児期の教育は、このような点に十分配慮して行うことが基本であり、加えて幼児期から児童期への円滑な成長の重要性を認識することが大切です。

台東区における幼児教育は幼児一人一人の情操を高め、規範意識や豊かな人間性、生きる力の基礎を育てながら、学校教育に求められる知識や技能、思考力や判断力、表現力などの基盤を養うことをめざします。





3 幼児教育の充実のための視点

台東区では幼児教育の充実に向けて、次の4つの視点を基本として取組を進めていきます。

- 視点1 カリキュラムの充実
- 視点2 幼稚園・保育園・こども園・小学校の連携
- 視点3 家庭・地域社会との連携
- 視点4 教育上特別な配慮を要する幼児への支援

視点1 カリキュラムの充実

幼児教育の充実を図るためには、幼稚園・保育園・こども園で実践していくカリキュラムの充実が必要になります。そのためには、幼児教育として台東区が重視したい教育内容を明確にして、区内のどの園でも共通のものとして小学校教育への円滑な接続を見据えた保育・教育をしていくことが重要です。ねらいに基づきながら、子供たちの「育ちの状況」を確かめ、各園の保育計画、教育計画で、この「幼児教育共通カリキュラム」を意識した保育・教育を行うことで、さらに一人一人の育ちを伸ばしていくことができます。

視点2 幼稚園・保育園・こども園・小学校の連携

幼稚園教育要領ならびに保育所保育指針には「小学校教育との円滑な接続のため、幼児と児童の交流の機会を設け」、「小学校の児童との交流、職員同士の交流、情報共有や相互理解など小学校との積極的な連携を図るよう配慮する」など、接続や連携について明記されています。子供の発達と学びの連続性を確保するためには、遊びを通しての学びが主流の幼児教育から、教科学習の比重が大きくなる小学校教育への移行について、保育士・教員が十分に幼児期から児童期への発達の流れを理解することが必要です。

視点3 家庭・地域社会との連携

幼児の生活は、家庭を基盤として地域社会を通じて次第に広がりをもっていきます。幼児期の教育は、基本的な生活習慣やしつけなどに見られるように保護者や家族による部分が大きいため、まず、教育の原点となる家庭における教育力を高めていくことが大切です。また、地域では、本来、地域において学ぶべき社会規範や人間関係などの習得が難しくなっています。そのため、家庭や子供とのつながりを密にし、地域の教育力を発揮させていくことが重要となります。

視点4 教育上特別な配慮を要する幼児への支援

平成19年度から、学校教育法の改正により、新たな制度として、特別支援教育が始まりました。幼児・児童・生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、そのもてる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものとされています。幼児期の教育は、一人一人の興味・関心に応じた教育でもあります。適切な配慮をすることによって、より充実した保育・教育が行われ、小学校への円滑な接続が図られる場合も多くあると考えられます。これまで以上に、ユニバーサルデザインを取り入れることなど、日常の中で様々な配慮をして保育・教育を進めていくことが大切になります。

ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインとは、「全ての人のためのデザイン」という思想で、アメリカ合衆国ノースカロライナ州立大学のロナルド・メイス教授によって1980年代に提唱されました。性別・年齢・言語・国などの違いや障害の有無にかかわらず、たくさんの人が利用できるように製品などをデザインしようというものです。全ての子供たちが活動しやすい環境や援助を取り入れた保育を進める視点として、ユニバーサルデザインの考え方で保育を見直してみることを考えていきましょう。



箸の持ち方の表示



4 めざす子供の姿

変化の激しい社会の中で、自立して生きていくときに重要な「生きる力」には、思考力・判断力・表現力等、学習意欲、生活習慣・学習習慣、自分への自信や自らの将来についての関心、体力などが含まれています。

「生きる力」

変化の激しい社会を担う子供たちに必要となる力は、「基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」、「自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性」、「たくましく生きるための健康や体力」

(「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について(答申)」)

(平成8年7月 中央教育審議会)

幼児は安定した情緒の下で自己を十分に発揮することにより、発達に必要な体験を得ていきます。このことを考慮して、幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすることで、生きる力を育てていくことが大切です。幼児期に行われる教育はその特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本としています。このため、保育士・教員は幼児との信頼関係を十分に築き、幼児と共によりよい教育環境を創造するように努めることが大切です。

幼稚園教育要領・保育所保育指針のなかの発達の側面からまとめた5つの領域を考慮して、台東区の子供一人一人が様々な体験を通して、自分のよさを十分に発揮し、心豊かに生きる喜びに満ちた子供たちであってほしいと願い、育てたい子供の姿を設定しました。この「めざす子供の姿」を実現するのは、保育士・教員の意識と教育力です。

台東区の幼児教育がめざす子供の姿

健やかな心と体を持ち、きまりを守り行動できる子供

やさしさや思いやりの心を持ち、友達と協力して物事をやりとげようとする子供

自然や身近なことに関心を持ち、自ら考え、豊かに表現する子供

幼児は、伸び伸びと行動し、遊びにおいて主体的な力が発揮され、生きる喜び、充実感を味わうこととなります。また、幼稚園・保育園・こども園での生活には、生活上の様々なきまりがあります。幼児は、集団生活や友達との遊びを通して、これらのきまりがあることに気付き、それに従って自分を抑制するなどの自己統制力を徐々に身に付けていきます。日常的な生活の中で規範意識を身に付け、健やかな心と体を持ち、生活のきまりを守り、集団の中でがまんするときにがまんができる子供の姿をめざしていきます。

他の幼児と一緒に楽しく遊んだり活動したりすることを通して、互いのよさや特性に気付き、友人関係を形成しながら、相手を思いやる気持ちができていきます。人間関係が深まるにつれて、幼児同士

がイメージや思いをもって交流し合いながら、そこに共通の願いや目的が生まれ、それに向かって遊びや活動を展開していきます。台東区には豊かな心や地域社会の触れ合いなど、下町特有の人間味が受け継がれています。よき伝統に育まれ、やさしさや思いやりの心を持ち、幼児同士が共に工夫し、協力して物事をやりとげようとする子供の姿をめざしていきます。

好奇心や探究心をもって、自分でよく見たり、取り扱ったりすることにより、思考力の基礎を培っていきます。また、遊びの中で新たなことを思いついたり、何かに気付いたり、疑問を感じたりしたときに、それを保育士・教員や友達に話すことを通じて、表現力の基礎が育っていきます。また、様々な体験の中で大人から教えてもらうことや、絵本、映像、情報機器等から知識を得ることも学びの基礎につながります。手で触ったり、全身で感じてみたり、あることを繰り返しやってみたり、考えたりしながら人や物にかかわっていく中で、感覚に基づくいろいろな表現方法を通して、自ら考え、イメージを豊かに表現していく子供の姿をめざしていきます。

台東区基本構想

暮らしやすいまち 次の世代の育成

子ども一人ひとりを大切にしたい、子育てがしやすいまちをめざします。

こころざしを抱き、夢や希望をもち、21世紀を自らの力でたくましく生きることを可能にする教育をめざします。

台東区次世代育成支援行動計画

基本理念

子どもたちの笑顔にあふれ、にぎわいと活力のまち・たいとう
～子どもの育ちを喜び、見守るまちを目指して～

台東区教育委員会教育目標

- ・互いの人格を尊重し、思いやりの心と規範意識をもつ人
- ・個性や豊かな創造力、健やかな体を持ち、自ら学び、考え、行動する人
- ・台東区の歴史・文化に誇りをもち、地域社会を愛し、発展に貢献できる人

台東区の幼児教育の基本理念

人権尊重の精神に基づき、豊かな生活体験を積み重ねながら、規範意識の芽生えを育て、一人一人のよさと可能性を伸ばしていくことで、「生きる力」の基礎を培っていきます。

保育所 保育指針

幼稚園 教育要領

台東区の幼児教育がめざす子供の姿

健やかな心と体を持ち、きまりを守り行動できる子供

やさしさや思いやりの心を持ち、友達と協力して物事をやりとげようとする子供

自然や身近なことに関心を持ち、自ら考え、豊かに表現する子供